

令和6年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	山都町役場			代表者名	坂本 靖也
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名	健康ほけん課	連絡先電話番号	0967-72-1295
担当者役職	健康づくり係長	担当者氏名	飯法師 直美	連絡先E-mail	
住所	861-3592 熊本県山都町浜町6番地				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署		連絡先電話番号		連絡先E-mail	
担当者氏名		連絡先電話番号		連絡先E-mail			

1-3. 支援を求める内容

支援方法	具体的課題への支援	事業名（予定）	山都町医療MaaS事業		
概要	山都町において、医療機器を装備し看護師の搭乗した車両を用いて、患者の集合している公民館等を巡回しオンライン診療を行う医療MaaS事業を令和6年度開始し令和7年1月の試験運行に向けて準備しているところだが、医師に「医療の質を落としたいくない」という思いや「看護師不足」「無医地区や準無医地区以外の地域は医療MaaS車両では診療の場所として認められていない」などの課題が新たに表出している。アドバイザー派遣により他自治体の事例をもとに課題解決を図りたい。				
支援を求める分野	人材（DX推進のための機運の醸成） 医療・介護・健康				

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	有	218K	令和6年12月5日	支援・助言	実地
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和6年11月14日	支援・助言(実地)	14時00分	18時00分	
				活動時間（分）	240
2-2. 派遣場所	会場名	山都町立包括医療センターそよう病院		最寄駅	熊本空港
	所在地	熊本県上益城郡山都町滝上476番地2		最寄駅からの交通手段	バス

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	安江 輝
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	安江アドバイザーの幅広い知見をもとに支援、助言、講演をいただき、また懇親会にも快く参加いただいたことで、役場内職員及び町立そよう病院の職員、受託事業者とで医療MaaS事業をはじめ町の課題解決に関する意識の醸成が図られた。また受託事業委託事業者等にも気軽に話し合いができる関係性であること。
アドバイザーへの要望事項	今後も引き続き、町や医療MaaS事業の実施医療機関への直接的な助言やアドバイスをお願いしたい。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	22人		
	属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
	人数	5	0	17	0

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	令和7年1月からの試験運転、2月からの実装運転に向けて医療MaaS事業の準備を段階的に進めているが、行政主導でこの事業を導入開始したため、主役である医療機関側の準備が思うように進んでいない。対象患者の抽出や患者説明などもできていない。この背景には医療機関側の「赤字を出したくない」また医師には「オンライン診療は対面診療より医療の質が落ちる」などの思いが根深くあり、払拭できないことが課題である。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	医療機関には対象者の抽出や対象者への説明など主体性をもって、医療MaaS事業に関与してもらうこと。令和6年度は小規模で医療MaaS事業をスタートさせ、令和7年度に向けた予算確保を行い、令和7年度に当初から段階的に稼働できるよう、予算、医師の体制、車両や医療機器の管理、車両同乗職員の確保を行うことで、遠隔地に居住している住民に医療を届けること。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	事前の職員との打ち合わせ、町立そよう病院長・事務長との対談、医療MaaS事業の診療に直接的に関与する職員を集めた研修会(講演会)及び懇親会まで出席いただき助言や支援を受けた。伊那市の医療MaaS事業や山口県の遠隔診療などをモデルに情報提供をしていただき、内容については、診療報酬に関すること、訪問看護・介護との関連性、運用主体と車両運行の管理方法住民説明と患者の選定、地域医療と地方創生の関連性についてまで、お話しいただいた。オンライン診療は目に見えないが車両は目に見えるものであるため、手段として使い住民に周知していったらどうかと助言された。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	伊那市などの医療MaaS事業の先進的な取り組みを動画等でお示しいただいたので、実際診療に携わる病院職員に対し診療場面がイメージしやすく、R7年1月から試験運転を開始するという意識の醸成が図れた。また一緒に同行していただいた受託事業者に対しても移動時間を利用して、町が抱えていた委託事業者に対しての不満事項についてもお伝えいただいた。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	アドバイザー派遣後、受託事業者が積極的に医療機関に直接的に介入いただくようになり、診療医の決定、対象地区および対象者の選定ができた。医療機関のオンライン診療についてはそれまで膠着状態にあり、目に見える進捗がなかったが、安江アドバイザーの支援のおかげで進展したことが大きな成果である。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 講演終了後に懇親会を開催したため、その会場内で感想を聞くことができたので、アンケートは実施しなかった。総括して町立そよう病院長より『不安はまだあるが、安江さんという相談できる人に出会い、今後いろいろ相談したい。将来の医療従事者不足時の地域医療維持への備えとして、医療MaaS普及に協力することは極めて重要』という意見(感想)を引き出した。	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	①予算は確保済みであり、年度内に推進する 1月中旬に、対象地区への住民説明会を行い、1月下旬から試験運転を開始する。試験運転で見つかった課題に対し、2月以降の実装運行で改善できるよう対応する。
4-4. 事業の最終的な目指す姿	医療機関の減少に対し、医療機関の受診の機会を身近な場所で定期的確保できる環境(体制)を整備することで病気や介護の重症化を防ぎ生活の質を維持したまま山都町に住み続けられる住民を維持する。	

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可 掲載可

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/

なお<その他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

